

2019年9月23日(月)ESDの今、これから・第二部

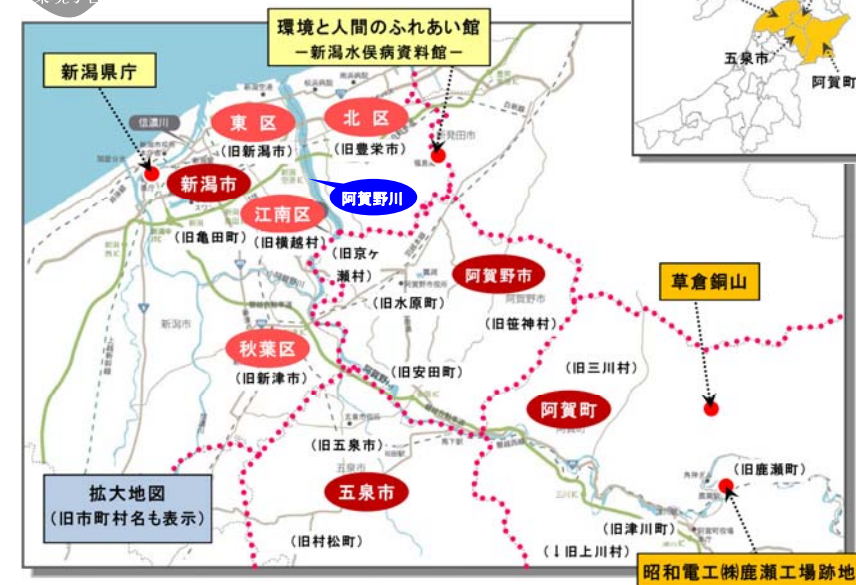
阿賀野川流域地域の光と影を 通じたESD-SDGsの多様な展開



一般社団法人
あがのがわ
環境学会

一般社団法人
あがのがわ
環境学会

事務局長・山崎陽



新潟水俣病とは？

新潟水俣病とは？

- 旧昭和電工(株)鹿瀬工場が、阿賀野川に流した排水中の**有機水銀**が引き起こした公害。
- 公式確認:昭和40年5月31日→公表:6月12日**(※熊本水俣病は昭和31年5月1日が公式確認)
- 川と関わり暮らしてきた人々の健康を損なっただけでなく、阿賀野川の環境を汚染し、地域住民の絆にも深刻な影響を及ぼした。

阿賀野川流域における公害発生から地域再生まで





阿賀野川 えとこたプロジェクト 紹介

正式: 阿賀野川流域地域フィールドミュージアム事業
通称: 阿賀野川えとこたプロジェクト
略称: FM事業



FM事業のはじまり

H17年度 新潟県知事の宣言が、FM事業開始のきっかけ

- 平成17年6月、新潟水俣病40周年を契機に、「**ふるさとの環境づくり宣言**」を、泉田裕彦・新潟県知事が公表した。

誰もが安心して暮らしていける地域社会の実現を目指すために、地域社会の再生・融和を図りながら、新潟水俣病の経験や教訓を伝えると共に、今後ふるさとの自然を二度と汚さない方針が表明された。
(※H20年9月「**新潟水俣病地域福祉推進条例**」を制定)



H19年度 この宣言の方針に基づき、FM事業が本格的にスタート



- 平成19年11月、県の提唱のもと、県・流域市町・地元有識者からなる実施検討会を結成して、FM事業がスタートした。

阿賀野川流域が、今も続く新潟水俣病問題に向き合い、それを乗り越えるような「人と人の絆」や「人と自然の関係」を紡ぎ直すための新しい地域づくりプロジェクト。(※公害により失われた関係を紡ぎ直す活動を、船を綱でつなぐ行為にたとえて「**もやい直し**」と呼ぶ。)



新潟水俣病問題が抱える様々な課題

- 地域社会での被害者への偏見・中傷の解消 ○被害者への医療・福祉対策
- 新潟水俣病の教訓の普及・啓発 ○新潟水俣病の正確な知識・情報の普及
- 流域住民の環境に対する意識の向上 ○次世代へ伝える教育の普及促進
- 流域住民の誇りの回復、疲弊した地域の再生 ○行政が果たすべき役割

新潟水俣病地域福祉推進条例に基づく「課題の整理」

地域再生
(もやい直し)

主に「FM事業」

教育・啓発

主に「環境と人間のふれあい館～新潟水俣病資料館」

福祉対策

主に新潟県生活衛生課



FM事業の全体像～体系



FM事業の全体像～様々な個別事業 (H26.11月現在)

イベント



情報発信



作品群



環境学習



「ロバダン!」紹介 ～大事なことは少人数で本音で話す!



■「炉端談義」を略して「ロバダン!」

流域の茶菓子など楽しむつろいだ雰囲気の中、囲炉裏をかこんで**本音**を語り合えるような、**10名程度の少人数の寄り合い**。流域各地で開催。

流れ 事業説明:10分 作品観賞:15分 フリートーク:1時間30分



■ロバダン! 三原則

- 新潟水俣病のもやい直しが目的とはっきり伝える。
- 相手の言い分にはまずは耳を傾ける。否定しない。
- 共通の価値観を探る。共通の価値観を広げる。

話題は何でもオーケー!

しかし、大半のロバダンで新潟水俣病の話題が出る。

ロバダン!を通して見えてきた様々な本音

意見

- 下流域 ↑ 上流域
- 「公害発生当初、様々な人々が地域に入り込んできたため、距離を置くようになった」
 - 「公害の被害者は可哀そう。しかし、自分の身近な人の中には、疑わしい人もいた」
 - 「不況で地域経済は低迷し生活は苦しい。FM事業と私達との接点が見出しづらい」
 - 「大河の恵みで育った農産物を、阿賀野川ブランドで売り出したいが現状では難しい」
 - 「公害があったため、鹿瀬出身の若い世代には、故郷に自信が持てない者もいる」
 - 「影の側面に偏った報道が多すぎる。せめて光の側面も併せて伝えてほしい」
 - 「新潟水俣病の原因は農薬水銀であり、昭和電工はあまり関係ないと思っていた」
 - 「新潟水俣病のことはあまり語りたくないが、地域が疲弊した現状は何とかしたい」

まとめ

公害

- 知識や情報を正確に知らない、若い人は無関心、顔見知りの被害者へは厳しい眼差し
- 不正確な知識を持つ年配者が多い一方、流域の若い人の多くはほとんど知らない。
- 基本的に被害者に同情的な人が多いが、顔見知りには疑いの目を向ける人も少なくない。

不満

- 話す機会がなかった、聞いてくれる人がいなかった、一方的な見方しかなかった
- 公害は禁句という人ほど「今まで誰も聞いてくれなかった」とロバダンでは積極的に話す。
- 偏った見方や伝え方に不満を抱く人が多く、「光と影」という視点を提示してくれた。

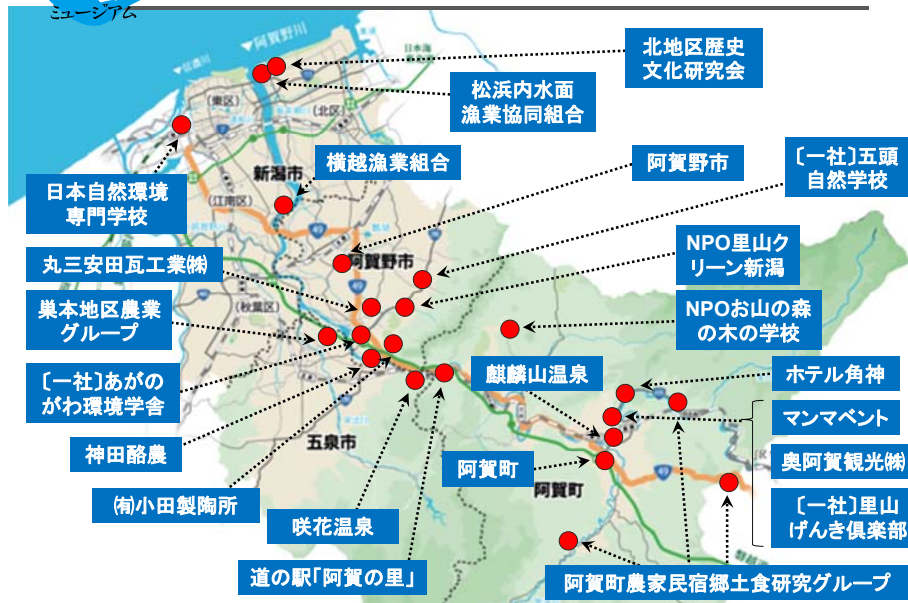
課題

- 地域への誇りが持てない、疲弊した地域を再生させたい、阿賀野川ブランドを誇りたい
- 新潟水俣病に対する考え方は人により様々だが、ほとんどの人が疲弊した流域の現状を嘆いている。
- 地域の影に向き合えないために、地域の誇るべき宝もんで隠してしまう場合が多い。

「炉端談議」略して「ロバダン!」～少人数の寄り合い



様々な流域団体との協働取組が一気に進展した！



阿賀野川
エコ
ミュージアム

阿賀野川流域の温泉組合と共に地域を巻き込む



ツアー&ネットショップ
阿賀の宝
ものがたり

阿賀野川流域独自の地域資源を発掘し商品開発



ツアー&ネットショップ
阿賀の宝
ものがたり

流域の郷土食や豊かな恵みに着目した「豪華な粗食」



あがのがわ 環境学舎 紹介

平成23年、あがのがわ環境学舎の誕生

あがのがわ 環境学舎

- ✓ 活動の舞台は「阿賀野川流域」(※新潟市・五泉市・阿賀野市・阿賀町の4市町)
- ✓ もととは、県が推進する**新潟水俣病の地域再生**業務を担うため、誕生した団体。
- ✓ 設立:平成23年2月
事務所:阿賀野市

阿賀野市保田3866番地1
TEL&FAX 0250-68-5424
<http://www.aganogawa.info/>



環境学舎は阿賀野川流域の地域再生を担当

あがのがわ 環境学舎 の本業務 **地域再生業務**



新潟県



阿賀野川
えとこた
プロジェクト



あがのがわ
環境学舎
アゲ



阿賀野川
エコ
ミュージアム



阿賀の宝
ものがたり

公害の
地域再生

&

一般的な
地域再生

光と影

どちらか一方に偏らず、光と影の両面を踏まえた取組とすることで、流域住民の方々から受け入れられた。

環境学舎は阿賀野川流域の地域再生を担当

あがのがわ 環境学舎 の本業務 **地域再生業務**



新潟県



阿賀野川
えとこた
プロジェクト



あがのがわ
環境学舎
アゲ



阿賀野川
エコ
ミュージアム



阿賀の宝
ものがたり

公害の
地域再生

&

一般的な
地域再生

現在の流域の人々は公害と接点がなく、流域活性化にも本気で取り組まなければ、誰も協力してくれなくなる。**公害以外**

環境学舎は阿賀野川流域の地域再生を担当

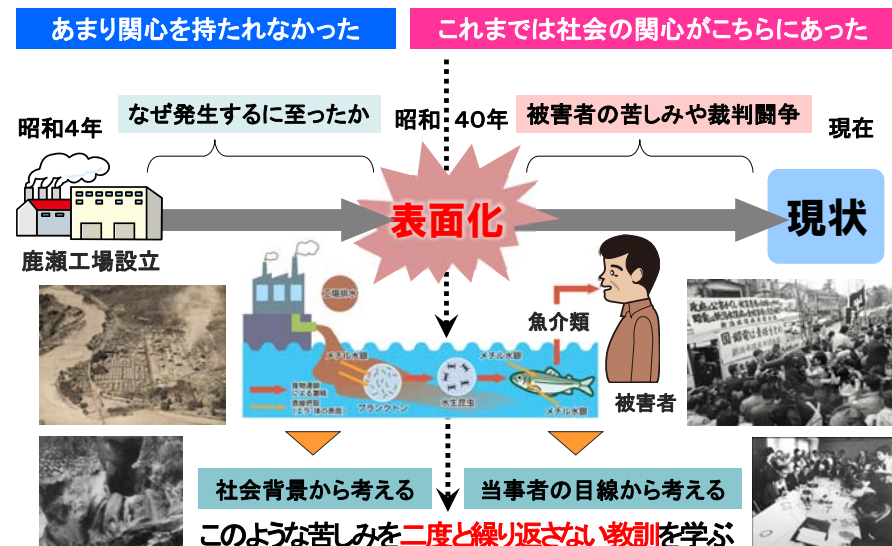


環境学舎の現在の取組を一部ご紹介



あがのがわ 環境学習ツアー 紹介

新潟水俣病の大まかな流れ



あがのがわ環境学習 ツアー



08 09

あがのがわ環境学習 ツアー を構成する3本の柱



修学旅行・研修旅行
など教育旅行向け

あがのがわ環境学習 ツアー

バックツアー・団体旅行
など一般観光向け

ツアー&ネットショップ
阿賀の宝ものがたり

- 全国の小・中・高校の修学旅行や大学のゼミ合宿等を対象にした旅行商品。
- 一般的な旅行商品も造成可能、旅館や観光団体の利用もオーケー。
- お客様が3本の柱からオーダーメイドで旅行商品を組み合わせる。

あがのがわ環境学習 ツアー 阿賀野川流域の産業・自然体験プログラムも開発



12 11

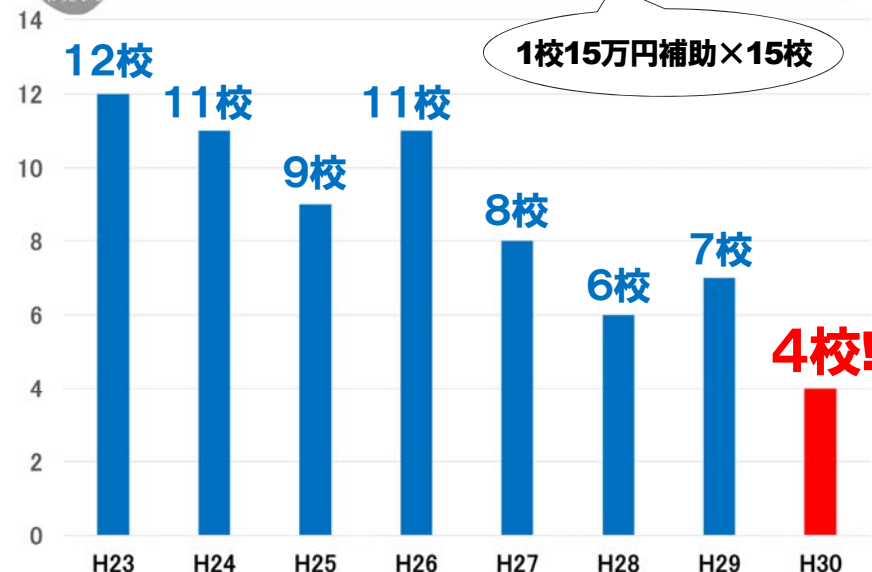
あがのがわ環境学習 ツアー 拡大する「あがのがわ環境学習ツアー」

- 小・中学校の授業代行・現地学習
- 高等学校の授業代行・現地学習
- 高校の体験教育旅行へのプログラム提供
- 大学の講義・現地学習・ゼミ合宿
- 県内外の流域訪問団体へのプログラム提供
- 流域住民への歴史講座ツアー
- 企業社員へのCSR現地研修
- 行政職員への現地研修

➡ H30年度実績: プログラム参加者約450名

小・中学校への 代行授業・現地学習 紹介

小・中学校への地域の環境学習等支援事業の利用数



五泉市・阿賀町の小・中学校へ環境学舎による働きかけ

五泉市 →→→→→ 6校



NPO法人五泉トゲノの会

阿賀町 →→→→→ 3校



阿賀町近代産業の教材

流域住民への 歴史講座ツアー 紹介

H31環境学習等支援事業は13校に回復

一般社団法人
あがのがわ
環境学会

2019年度から阿賀流域再発見・連続ツアー講座開催

阿賀流域再発見・連続ツアー講座「阿賀野川ものがたり」2019

水との闘い 水の恵み

第1回 大河によって形成された大地

座学 7/6(土) 10:50-14:30 ツアー 7/7(日) 9:10-16:20



第1回 7/6-7/7 第2回 9/7-9/8 第3回 10/26-10/27

主催 ● 新潟県 共催 ● 新潟市 後援 ● 五泉市・阿賀野市・阿賀町 協力 ● 水の駅「ビュー福島潟」 企画・運営 ● あがのがわ環境学会

一般社団法人
あがのがわ
環境学会

2019年度から阿賀流域再発見・連続ツアー講座開催

阿賀流域再発見・連続ツアー講座「阿賀野川ものがたり」2019年度・定員60名・一講座加募集!

水との闘い 水の恵み

大河によって形成された大地
7/6(土) 10:50-14:30
水びたしの大地との闘い
7/7(日) 9:10-16:20
水の恵みの今昔・その光と影
10/26(土) 10:50-14:30
10/27(日) 9:10-16:20

- 2019年度から新たにスタート
- 大型バスも最大2台!
- 福島潟の2施設も協力
- 年間テーマ決めて、年3回開催
- 1回につき2日連続開催し、1日目は福島潟施設で座学、2日目はバスツアーで流域を巡る!



水の公園福島潟 水の駅「ビュー福島潟」 県立環境と人間のふれあい館 新潟水俣資料館

一般社団法人
あがのがわ
環境学会

2019年度から阿賀流域再発見・連続ツアー講座開催

阿賀野川下流域を主な舞台に、
“水”との関連を学びます!

第1回 大河によって形成された大地
座学 7/6(土) 10:50-14:30 ツアー 7/7(日) 9:10-16:20

第2回 水びたしの大地との闘い
座学 9/7(土) 10:50-14:30 ツアー 9/8(日) 9:10-16:20

第3回 水の恵みの今昔・その光と影
座学 10/26(土) 10:50-14:30 ツアー 10/27(日) 9:10-16:20



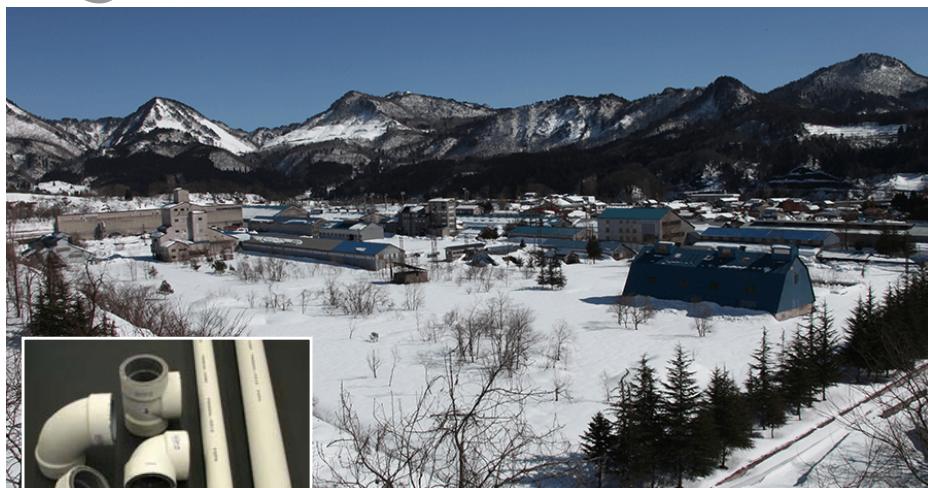



一般社団法人
あがのがわ
環境学会

CSR・行政研修 紹介

(H26～原因企業との協働)

現在、鹿瀬工場は新潟昭和(株)となって操業



▶ 現在はビル等の排水管を製造

排水処理施設で排水処理を24時間管理



排水処理施設を視察▼

▲法律よりも厳しい阿賀町独自の水質基準で排水処理



公害の光と影から学ぶ企業CSR&行政研修とは？



①工場の光と影の歴史を学ぶプログラム



②現在の排水処理の取組を学ぶプログラム



③PBL型のワークショッププログラム

H30～小・中学校の副教材づくり 紹介



2018年度
阿賀町教育委員会
等と協働して作成



2019年度
新潟市教育委員会
等と協働して作成



来年度は…

コンソーシアムを拡大して…

新潟市教育委員会 &
新潟市（保健衛生総務課）と公害を含む
地域教材を作成予定



各地域の環境学習等

水環境学習、稲作体験、人権学習など



新潟水俣病学習

被害語り部、ふれあい館、現地見学など

サイト 各学校



阿賀野川流域の小・中学校における
環境学習のエコシステムづくり

様々な流域団体

